

1. 感謝板倉聖哲、林莉娜、劉芳如、Hui-chi Lo, Susan Huang, 石釗釗、與黃立芸所提供的資訊。
2. 目前原則上固定於每週五寄發，包括展覽、演講、會議議程與徵文、網路資源、研習營等訊息，歡迎大家多多貢獻資訊。
3. 若有與中台藝術史或文化史相關的研究、演講、展覽、或會議之訊息，不論來自何地，都歡迎提供，我會將之轉給大家。雖然未必能與會，分散於天涯海角的我們卻可對各地情況有所瞭解。
4. 最新訊息以紅色標示，內容包括中(Big5)、英、日文(IME)碼。
5. 本期更新：[展覽](#)、演講、研討會、工作坊、call for proposals、[網路資源](#)。
6. 如有其他同好對此電子報有興趣，請告知電子郵件位址，我將加入寄送名單中。若不願收到，也請告知，以方便作業。

展覽：

■ 台灣

1. 國立故宮博物院

■ 亞洲

1. 廣東省博物館
2. 中國絲綢博物館
3. 浙江省博物館
4. 天津博物館
5. [遼寧省博物館](#)
6. 香港茶具文物館
7. [澳門藝術博物館](#)
8. [根津美術館](#)
9. 五島美術館
10. 東京國立博物館
11. 岡山縣立博物館
12. [京都國立博物館](#)
13. [奈良國立博物館](#)
14. [大阪市立美術館](#)
15. [韓國中央博物館](#)

■ 歐美

1. Guggenheim Museum, NY
2. Cantor Arts Center, Stanford University

台灣

1. 國立故宮博物院

1) 偽好物—十六至十八世紀「蘇州片」及其影響

2018-07-01~2018-09-25

210

2) 紫砂風潮：傳世器及其他

2018/4/8-2019/

207

3) 適於心—明代永樂皇帝的瓷器

2017/5/18—

北部院區展覽區一 203

4) 杏林春暖-養生醫療趣味書畫

2018/7/01-9/25

204, 206

5) 鬼功·象牙球：牙雕的奇巧極致

展期：2017/12/30~2018/07/01

故宮南院

6) 院藏善本古籍選粹

展期：2018/1/20-11/04

104

7) 千年一問—鄭問故宮大展

2018/6/16-9/17

北部院區 第二展覽區 圖書文獻大樓一樓特展

8) 天香茄楠—香玩文化特展

2018-05-25~2019-10-20

北部院區 第一展覽區 304

「天香」二字，取自北宋丁謂所著《天香傳》，為中國最早針對沉香所做之專著。「茄楠」是明代開始視為最高等級的沉香。沉香的形成是由瑞香科樹木經過刀傷、蟲蛀或細菌感染傷口所分泌的樹脂，經過長時間結節而成，即所謂「結香」。主要出產於兩廣、海南、越南與東南亞等地。因為特殊的結香方式，成為或蜜香或乳香，既醇厚又清涼的幽遠香味。自古以來，為世人所重，在生活、宗教、醫學都被妥善使用，發展出獨特鑑賞方式、隨身香佩及薰燃器具，成為奢華尊貴又帶有士人風雅的香玩文化。將展覽取名為「天香茄楠」，期待觀者除欣賞工藝製作之美外，更能探尋如天香般令人難忘的香味。

展覽分成兩部分，一是「香之道」，通過國立故宮博物院所收藏的宮廷茄楠沉香，看過去的日子裡，稀有的沉香是如何被珍藏、穿戴及薰燃品玩，故分為「收藏陳設」、「隨身佩飾」、「品香香具」三個單元，以了解古人是如何使用這種價比金高的香中鑽石，讓生活更有味道。二為「香之味」，看今日除收藏、佩戴外，過去數十年來，台灣復興了品香文化。以品香為主，發展出完整的香席器用，藉由展出「香具藝術」與「品香空間」二單元，讓這些優秀的創作來說明現代人如何玩香，同時傳遞著屬於現代人生活的美感。

在沉香越來越稀少的今日，透過展覽，看當時宮廷如何將最上乘的沉香，奢侈的做成各種精美的香玩器。也經由台灣在地的本土創作，將生活美學淬煉在玩香的器具。

9) 何處是蓬萊—仙山圖特展

2018/7/1-9/25

202, 208, 212

10) 典藏新紀元—清末民初的上海畫壇

2018-07-01~2018-09-25

北部院區 第一展覽區 105,107

11) 品牌的故事—乾隆皇帝的文物收藏與包裝藝術

南院

展期 | 2018.07.24-10.14

地點 | 國立故宮博物院南部院區 S101 借展廳

<https://artouch.com/artouch2/content.aspx?aid=2018011215286&catid=02>

12) 國寶再現—書畫菁華

2018-10-04~2018-12-25

北部院區 第一展覽區 210

北部院區一〇七年再度推出「國寶再現—書畫菁華特展」，於二一〇陳列室展出二十六件國寶級精品，內容包括東晉王羲之（303-361）、唐閻立本（?-673）、玄宗李隆基（685-762）、徐浩（703-782）、宋范

寬(約950-1031間)、易元吉(11世紀後半)、蘇軾(1037-1101)、米芾(1051-1107)、高宗趙構(1107-1187)、蕭照(12世紀)、夏珪(活動於1195-1224)、馬麟(活動於1195-1264)、金武元直(活動於1149-1189)、元鮮于樞(1256-1301)、趙孟頫(1254-1322)等名家之作，件件俱為美術史中聲名赫赫的一時之選，肯定是今年院慶期間最吸睛的藝術展演。

展期自一〇七年十月四日至十二月廿五日，其中限展品，將分前後期展出，十月四日至十一月十四日為前期，十一月十五日至十二月廿五日為後期。類此重量級的精品展出至為難得，竭誠歡迎大家把握良機，細細品賞國寶名作之美。

<https://zhuanlan.zhihu.com/p/36817961>

亞洲

1. 廣東省博物館

十三到十四世紀亞洲東部的陶瓷貿易

2018/4/27-8/26

2. 中國絲綢博物館

1) A World of Looms – Weaving Technology and Textile Arts in China and Beyond

2018/5/30-9/15

This is the first exhibition in China to present the rich cultural heritage of looms and weaving technologies from around the world. It celebrates the marches of textile innovations in not only China, but also in a broader context of textile traditions over vast geographical areas. The exhibition will be divided into three galleries – China, Eurasia, Americas and Africa – each featuring a representative selection of looms. These range from recently excavated archaeological findings, through to Jacquard looms and multi-shaft looms.

Conference: 31 May 2018

A one-day conference runs concurrently with the exhibition *A World of Looms* and features many distinguished textile scholars including OATG member Chris Buckley. The presentations are very diverse and cover loom technology from China, Japan, Laos, Indonesia, Iran, Africa, and the Andes. Admission is free, but reservations are recommended.

https://www.academia.edu/36235810/A_World_of_Looms_Weaving_Technology_and_Textile_Arts_in_China_and_Beyond_conference_flyer_and_program

2) 神機妙算: 世界織機與織造藝術

2018/5/30-9/5

3. 浙江省博物館

1) 越地寶藏: 一百件文物講述浙江故事

2018/6/8-10/8

4. 天津博物館

1) 清代中期繪畫特展

天津博物館五樓書畫廳

分兩期進行，第一期展出時間自 5 月 16 日至 8 月 12 日，更換部分展品後，第二期將持續到今年 11 月中旬結束。

兩期展覽將展出 84 位畫家 160 余件繪畫珍品。天津博物館藏黃鼎《長江萬里圖》卷、無款《乾隆題阿玉錫像圖》軸（即《紫光閣功臣像》）、冷枚《春閨倦讀圖》軸、袁耀《汾陽別墅》通景十二條屏、鄭燮《華峰三祝圖》軸、康濤《華清出浴圖》軸，故宮博物院藏郎世寧《弘曆觀畫圖》軸、冷枚《梧桐雙兔圖》軸，上海博物館藏郎世寧《聚瑞圖》軸、丁觀鵬《乞巧圖》卷，遼寧省博物館藏董邦達《盤山十六景圖》卷，浙江省博物館藏羅聘《金農像圖》軸，西安博物院藏顏嶧《江村圖》軸，揚州博物館藏蕭晨《桃花源圖》軸，天津市文物公司藏李世倬《截寫長江山水圖》卷等重要展品將悉數亮相。

https://mp.weixin.qq.com/s/1XmpWAqr6u55_8V4rE5-ug

2) 耀世奇珍-館藏文物精品陳列

5 月 29 日~

5. 遼寧省博物館

1) 中國古代書法

2) 中國古代繪畫

<https://mp.weixin.qq.com/s/5bbC64liBGX4zIaEknLCPw>

6. 香港茶具文物館

藝術背後—中國外銷茶具展

2018.04.18-10.31

<https://artouch.com/artouch2/content.aspx?aid=2018041921442&catid=02>

7. 澳門術博物館

漁山春色—吳歷逝世三百周年書畫特展

2018/9/8-11/11

<http://www.mam.gov.mo/c/exhibition/2/detail/1e2cda0a-02e7-4a5d-9e4f-f24c3bdac6f2>

8. 根津美術館

禅僧の交流: 墨蹟と水墨画を楽しむ

2018年9月1日(土)～10月8日(日)

中世、日本と中国の僧たちは商人の船で渡海し、親しく交流をもっていました。その様子は、師から弟子へ与えられたものをはじめ、禅僧が書いた個性豊かな墨蹟からもわかります。一方で日本の禅僧は、中国の文人にならった文化サークルに集い、その仲間とともに水墨画を鑑賞して賛を付し、詩と絵とによる見事な作品を誕生させました。また禅僧の中には、有名な雪舟のように絵画制作を専門とした者もいました。

禅僧たちによつてはぐくまれた、人と人による交流の中で生まれた墨蹟と水墨画の名品をご紹介します。

<http://www.nezu-muse.or.jp/jp/exhibition/next.html>

9. 五島美術館

禪宗の美術と學藝

2018年8月25日〔土〕—10月14日〔日〕

10. 東京国立博物館

1) 中国の書跡 江戸期舶載の書

東洋館 8室

2018年6月26日(火)～2018年8月26日(日)

2) 中国近代絵画の巨匠 齊白石

2018年10月30日～12月25日

主催者：東京国立博物館、京都国立博物館

場所：東京国立博物館 東洋館

内容：本展は東京国立博物館と京都国立博物館の共同企画である。北京画院美術館より、中国近代絵画の巨匠である齊白石の優品を借用し、その魅力を日本の観衆に広く紹介する。

3) 特別展「顔真卿 王羲之を超えた名筆」

平成館 東京国立博物館、毎日新聞社

2019年1月16日(水)～2月24日(日)

唐時代、歐陽詢・虞世南・褚遂良の三大家が楷書の典型を完成させました。三大家の伝統を継承しつつ、新たな筆法を創出したのが顔真卿です。本展は、唐時代の書を取りあげ、国内外の名品を通して、顔真卿の人物や書の本質に迫ります。また、後世に与えた影響や日本での受容にも目を向け、唐時代の書の魅力をご紹介します。

11. 岡山県立美術館

生きてゐる山水：廬山をのぞむ古今のまなざし

Working Scape: Respect the True Nature of Mt.Lu

◆2018年8月31日（金曜日）－9月30日（日曜日）

玉潤《廬山図》（重要文化財）は、当館のコレクションを代表する水墨の名品です。また、廬山の位置する江西省と岡山県は、1992年に友好提携を結び交流が続いています。本展では、陶淵明や李白の名詩、「虎溪三笑」の故事でも名高い廬山に着目し、中国の宋・元時代から日本の近世にかけての名品に現代作家・山部泰司（1958年 岡山県生まれ）による新たな風景表現の視点を加え、時を越えて生き続ける「山水画」の真髄を探ります。

12. 京都国立博物館

知恩寺の名宝

2018/8/7-9/9

http://www.kyohaku.go.jp/jp/project/chionji_2018.html

13. 奈良国立博物館

1) 糸のみほとけ—国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏展

2018/7/14-8/26

日本では刺繍（ししゅう）や綴織（つづれおり）など「糸」で表された仏の像が数多く作られました。とりわけ、古代では大寺院の一堂の本尊とされる花形的存在でした。綴織當麻曼荼羅（つづれおりたいままだら）（国宝、奈良・當麻寺蔵）や刺繍釈迦如来説法図（ししゅうしゃかによらいせつぼうず）（国宝、奈良国立博物館蔵）は、その隆盛のさまを伝える至宝です。また、糸を縫い、織る行為は故人の追善につながり、聖徳太子が往生した世界を刺繍で表した天寿国繡帳（てんじゅこくしゅうちょう）（国宝、奈良・中宮寺蔵）が生み出されました。鎌倉時代以降、刺繍の仏は再び隆盛を迎えますが、その背景には綴織當麻曼荼羅を織ったとされる中将姫に対する信仰がありました。極楽往生を願う人々は中将姫（ちゅうじょうひめ）に自身を重ね刺繍によって阿弥陀三尊来迎図（あみださんぞんらいごうず）や種子阿弥陀三尊図（しゅじあみださんぞんず）を作成しました。

この展覧会は綴織當麻曼荼羅の修理完成を記念し、綴織と刺繍による仏の像を一堂に集める特別展です。天寿国繡帳、綴織當麻曼荼羅、刺繍釈迦如来説法図の国宝3点が一堂に会する空前の企画です。本展を通して絵画とも違う「糸」の仏の世界の魅力をご鑑賞いただければ幸いです。

2) 第七十回 正倉院展

2018/10/27-11/12

秋の奈良の風物詩ともいわれる正倉院展は、今年 70 回の節目を迎えます。今年は北倉(ほくそう) 10 件、中倉(ちゅうそう) 16 件、南倉(なんそう) 27 件、聖語蔵(しょうごそう) 3 件の、合わせて 56 件の宝物が出陳されます。そのうちの 10 件は初出陳を含みます。

今年は聖武天皇ゆかりの平螺鈿背八角鏡(へいらでんはいのはつかくきょう)をはじめ、沈香木画箱(じんこうもくがのはこ)、玳瑁螺鈿八角箱(たいまいらでんはつかくのはこ)、犀角如意(さいかくのによい)など、珍貴な素材を惜しげもなく使い、技術の粋を尽くした華麗な工芸品が目を楽しませてくれることでしょう。

一方、今も身近な素材である麻は、古来様々な用途に用いられ、麻布は税として地方から都に納められました。今年は平成 25 年度から 27 年度にかけ、宮内庁正倉院事務所によって行われた特別調査を踏まえ、麻を用いた様々な宝物が出陳されます。麻と人間の織りなす文化史に思いを馳(は)せてみてください。

この他、正倉院宝物と同時代に、朝鮮半島に栄えた王国・新羅(しらぎ)に関わる宝物も多数出陳されます。唐との交流だけではない、奈良時代の多様な国際関係に、目を向けていただく機会となれば幸いです。

近年の様々な成果を反映した平成最後の正倉院展を、宝物を伝えた奈良の地でお楽しみください。

14. 大阪市立美術館

阿部房次郎誕生一百五十年記念:中国書畫名品展

2018/10/16-11/25

<https://mp.weixin.qq.com/s/uiL83zNLXQQkDt44NOqfjQ>

15. 韓國中央博物館

1) 新安沉船发掘黑釉瓷

2018/6/4-2019/6/2

新安海底文化財室

2016 年舉行的新安沉船發掘 40 周年紀念特別展「新安沉船的發現」使得普通人和學界對新安海底文化遺產的關注度大幅升溫。此次將繼續發行《新安海底文化遺產調查報告叢書》第三輯之《黑釉瓷》，展出一段時間以來的研究成果，並特別公開 180 件黑釉瓷展品。經確認，這部分黑釉瓷產自福建省建窯，以及江西省和河北省。同時，還將一併展示茶與黑釉瓷的關係、茶盞消費傾向之變化等

2) 大高麗 (918-2018) 輝煌的挑戰

2018/12/4-2019/3/3

為紀念高麗(918-1392 年)建國 1100 周年，國立中央博物館舉行特別展覽。宋徽宗宣和六年，徐兢作為使臣隨員訪問高麗首都開京(現開城)，回國後撰寫了《宣和奉使高麗圖經》。本次特別展覽介紹徐兢在書中讚歎的高麗文物和高麗實現的文化成就。高麗繼承統一新羅、渤海的文化，融匯過去的傳統，並在

與周邊國家活躍交流的過程中形成了開放多元的國際文化。因此當時有很多外國人踏上高麗禮成港，讓“KOREA”這一國名揚名於世。如果說徐兢驚歎的高麗青瓷彰顯了高麗人對新技術的挑戰，精緻纖細的高麗佛畫與螺鈿漆器的藝術成就則可謂是通過挑戰達到的藝術頂峰。

歐美

1. Guggenheim Museum, NY

The Robert H. N. Ho Family Foundation Chinese Art Initiative Final Exhibition

2018/5/4-10/21

The third and final exhibition of The Robert H. N. Ho Family Foundation Chinese Art Initiative will present new commissions by Cao Fei, Duan Jianyu, Lin Yilin, Wong Ping, and Samson Young. These artists have been selected for their unconventional artistic practices, creative experimentation, and critical reflections on social conditions in a technologically mediated reality. Each will collaborate with the museum on individual site-specific projects that respond to interconnected ideas proposed by the curators of the initiative.

Launched in 2013, the initiative engages artists, scholars, and curators from around the world to bring intersecting regional and global conversations and contemporary practices to the fore. Through the selection of key artists, practices, and issues arising from across Greater China, The Robert H. N. Ho Family Foundation Chinese Art Initiative strengthens the Guggenheim's collegial network among the Chinese art community and expands the discourse and investigation of contemporary art today. The most recent presentation, *Tales of Our Time* (2016–17), was a group exhibition that included a robot-operated installation of monumental scale, a public tea gathering in an indoor garden setting, and immersive video works to explore and challenge the notion of place. The first exhibition of the initiative, *Wang Jianwei: Time Temple* (2014–15), featured a sculptural installation, paintings, a film, and a performance by Wang Jianwei, one of China's leading conceptual artists. All works created through the initiative will form The Robert H. N. Ho Family Foundation Collection at the Guggenheim.

2. Cantor Arts Center, Stanford University

墨境 Ink Worlds: Contemporary Chinese Painting from the Collection of Akiko Yamazaki and Jerry Yang

May 23, 2018–September 3, 2018

研討會

1. 國際シンポジウム「写本時代のシルクロード」

2018/8/22

龍谷大學佛教文化研究所

龍谷大学と中華人民共和国の旅順博物館は、2017年6月に恒常的な友好学術協定を結んでいる。現在、両研究機関は、大谷探検隊が将来した史資料などを通してシルクロードについての学術的研究を共同で進めている。今回は、同博物館館長の王振芬氏の他に北京大学、中国人民大学、中

国社会科学院、首都師範大学の研究者が一堂に会し、シルクロードにおける写本の伝播・歴史・仏教・文芸に関する最新研究の発表を行った。当日は、多くの聴講者が来場し、質疑応答も活発に行われた。そのような点からも、改めてシルクロード研究に対する一般の方々の関心の高さを実感するシンポジウムでもあった。

<https://rcwbc.ryukoku.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2018/08/877815b24aa9113668a3f1c9c27a9fc5.pdf>

2. 2018年「使節・海商・僧侶：近世東亞文化意象傳行過程中的中介人物」國際研討會

主辦單位：

中央研究院・主題計畫「使節・海商・僧侶：近世東亞文化意象傳行過程中的中介人物」

時間：

2018年08月30日(四)上午9:00至2018年08月31日(五)下午5:30

地點：

中央研究院人文社會科學館3樓第二會議室

※線上報名：

<https://goo.gl/forms/UO6LY7Zj2xZQ6rja2>

報名資訊：結果於8月25日公布，主辦單位保留刪取之權利。

網路報名名單請見「報名名單」，請記下編號以便加速報到程序。

名單公佈後並會以email通知，若未收到信件，請來信 eastaisa@gate.sinica.edu.tw 詢問。

相關連結：

https://eastasia201808.blogspot.com/2018/06/blog-post_97.html

2. International Conference: From the Silk to the Book Road(s): Networks of Commerce, Artifacts, and Books Between Central and East Asia

September 21-23, 2018;

Berkeley, California, USA

<http://frogbear.org/international-conference-from-the-silk-to-the-book-roads/>

Panelists and topics:

<http://frogbear.org/international-conference-from-the-silk-to-the-book-roads-panelists/>

網路資源

1) ColBase: 國立博物館所藏品統合検索システム

国立文化財機構の4つの国立博物館（東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）の所蔵品を、横断的に検索できるサービスです。

<https://colbase.nich.go.jp/>

このシステムに収録しているデータは、各館の所蔵品を対象としており、寄託作品は含まれません。また画像については、作品の著作権保護期間をすぎているもののうち、デジタル画像が準備されているものに限られます。また日本語以外の言語によるデータの収録も、一部の作品に限られます。

データの内容には不十分な点や、一部に不備・誤りがある場合があります。継続的に訂正を行なってまいります。正確性等について保証するものではありませんのでご了承下さい。

2) 日本美術図書館横断検索

<https://alc.opac.jp/search/book/>